

令和5年度 南井上小学校 総括評価表

(No. 1)

自己評価		学校関係者評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価指数	総合評価		
○健康やかな心身の育成 めざす児童像 『健康で明るく たくましい子ども』 を育成する。 ・健康で安全な生活を 育む力の育成 ・体力・運動能力の向 上 ・運動の楽しさを体感 できる体育の授業づ くり	① 自分の心身の状態に関心をも たせ、体力向上の実践力を育成 する。 ② 学校給食を中心にし、望まし い食育の推進とその啓発を図る。 ③ 保健教育・安全教育を充実し、 健康で安全な生活を営む力を育 成する。 ④ 運動の楽しさや喜びを体験さ せ、進んで運動しようとする意 欲と能力を育成する。	評価指標 ① 県・市単位教育事業の体育的活動への積極的 な参加を周知し、運動への意欲を喚起する。 ② 毎月の学年だより、保健だよりの中で基本 的な生活習慣の確立について啓発し、毎日の健康 観察表を提出する。 ③ 外遊びを好む児童の割合を90%以上にする。 ④ 好ましい食習慣の定着に向け、「早寝早起 朝ご飯」や「すききらいをせず食べる」を推奨 する。 ⑤ 避難訓練を各学期に実施し、学級での安全指 導も併せて実施することにより、防災教育を充 実させる。(年3回実施)	評価指標の達成度 ① 主に高学年において体育の大会への参加を呼 びかけ、参加を促し、出場する児童を増やすこ とができた。各種大会(体操・水泳・陸上)で の成果は、放課後練習の成果が現れた結果であ った。(市駅伝女子2位男子4位) ② 生活習慣確立と健康管理の一体化を進め、毎 日の健康観察表の提出は100%であった。 ③ 「体調に合わせ、外で元気に遊んでいる」と 答えた児童は、79.3%である。昨年より3%ほ どダウンしている。 ④ 保護者「早寝早起き 朝ご飯」 85.2% 児童「すききらいをせず食べる」 83.6% ⑤ 避難訓練は年間3回各学期で実施した。どの 形態であれ、全児童が冷静に行動した。また、 地域のJ-アラートに対応訓練や3、4年生の消防署 をお招きしての訓練も実施できた。	(評定) B (所見) 各学年の体育科 指導計画の実施に より、計画に運 動の技能の育成や 体力づくりを進め られた。各種大会 (体操・水泳・陸 上)での記録に、 練習の成果が現れ た。 外遊びの子 どもの減少が懸念 され、体力の2極 化が懸念される。 家庭と連携した 運動習慣・生活習 慣の定着、食育推 進について、さら に推進する。	・次年度への課題や改善策に ついてはよく考えてくれてい ると思う。具体的でとてもわ かりやすい。この中から、南 井上小学校として定着してい けるものがあつたら素晴らしい と思った。 ・一日一回は外遊びを心がけ るように呼びかけることはと ても大切であると思う。 ・冬でも半袖短パンの児童、 換気のために窓を開けている 状態、少し心配にも思うが、 自分でコントロールできている のであれば、よいと思う。 ・幼稚園の園庭が校舎になる ことについては安全確保につ いて、PTA でも考えていく必 要を感じる。	○ポジティブな行動支援 を引き続き心がけ、ほめて 、子どもに自らのよさを 自覚させることで「学校 へ行くのが楽しい」と 思える児童を育ててい く。 ○学年や行事とのかねあ いもあるが、酷暑や厳冬 時を除き、一日一回は外 に行くように積極的に呼 びかける。(体調不良 児童には要配慮) ○くすのき班活動(外遊 びの活動)があること、子 どもたちは喜んで体を動 かすことに効果的である ため引き続き続ける。 ○保健・体育委員会が外 遊びのイベントをする。 ○旧幼稚園が改築され、 校舎になることから、マ ニュアルを再編し、緊急 事態に備え、引き渡し の共通理解を図り、マ ニュアルの見直しをする。 ○不審者対応を含め各種 避難訓練や生命の安全 教育を関係諸機関と連携 して深化させる。
		○命を守る安全教育	活動計画 ① 体育授業の充実を図るとともに、戸外での運 動遊びを奨励し、体力・運動能力の向上を図る。 ② 進んで運動に親しむため、体育施設や用具の 充実を図る。 ③ 家庭と連携を図り、食生活を始めとする基本 的な生活習慣の確立に努める。 ④ 危険を察知し、未然に事故防止ができる判断 力を培えるよう避難訓練等の充実を図る。コ ロナ禍で中止していた不審者対策避難訓練も 再開する。 ⑤ 講師を招いて、命の安全教育を行い、自分の 命は自分で守ることを理解させる。	活動計画の実施状況 ① 休憩時には体を動かして気分転換しよう との指導で、屋外で遊び、運動する児童は多い。 ② 運動に合った用具の整備を進めた。体育主任 の全体計画のもと、各学年で活用できた。 ③ 毎月1回保健だよりを発行し、病気や事故を 予防するための基本的な生活習慣の確立につ いて啓発できた。 ④ 不審者対応、地震、火事想定避難訓練を実 施した。避難マニュアルも整備、更新し、安全 な下校をめざしている。各種避難訓練につ いて課題が出され、避難経路の見直しや、不 審者対策についても強化していく意見が出され た。 ⑤ 講師を招いて命の安全教育も実施した。	(評定) A (所見) 学習ルールの確 立に、学校全体で 系統性をもって取 り組んだ。特に、 学習の流れや目標 の可視化は効果 的であった。 グループやペア 学習は学習の深ま りに有効だった。 「書く」「聞く」 力の向上、「話す」 力の向上へつな ぎたい。	・低学年の子どもたちにも 丁寧に指導している様子に感 激した。教室が狭いことや、 隣のクラスの音が聞こえて しまうこともあったが、授 業に集中していた。 ・子ども時代の健全な学 びを進めることができるよう に先生方が意識して取り組 んでいる様子がよくわか った。
○確かな学力の向上 めざす児童像 『よく考え進んで 活動する子ども』 を育成する。 ・学習における基礎・ 基本事項の徹底した 指導 ・思考力・判断力・表 現力の向上	① 学習における基礎・基本事項 の徹底を図る。 ② 自ら学び、自ら考える力を 育む教育の充実を図る。 ③ 一人1台タブレットの活用を 推進する。	評価指標 ① 基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につ ける。 ② T T指導のあり方を研究し、個のつまずき等 に応じた指導を行う。 ③ 家庭学習の進め方について保護者に周知する とともに、年2回の面談等を通して連携を図る。 ④ 「学校は、わかる授業につとめ、基礎的な学習 の定着が図られるように取り組んでいる(保護 者)」「授業は、わかりやすい(児童)」ともに 90%以上	評価指標の達成度 ①「発表する習慣をつける授業」教員91.7% 『徳島市のくらし活用授業』研究に取り組んだ。 ② 躰きのある児童にT T指導が、効果をあげた。 ③ 「宿題や自主学習をきちんとしている」と回答 した児童は90.0%、保護者は86.9% ④ 「授業は、わかりやすい」児童は、94.3%、「学 校は、わかる授業につとめ、基礎的な学習の定 着が図られるように取り組んでいる」とした保 護者は91.0%で、昨年より6%アップした。	(評定) B (所見) 「聞く」態度の定 着が安心して「話 す」環境となり、 自分なりに考 えて話す力が 伸びつつある。 生活科・総合 的な学習の時 間等での課題 解決学習で、 自らの経験や 既習内容を元 に、課題を解 決する経験 を積み重ねたい。	○タブレットの持ち帰 りを推進し、ミライ シードなどの宿 題に取り組ませ る。 ○ ICT を活用する場 面を増やし、タ ブレット等 での自己表現 の場を意図 的に設け、様 々な課題に 取り組めるよ うにする。 ○ ICT 支援員による 研修を増やし、 情報モラル の学習も並 行して行う。 ○総合学習では、3 年生からはロー マ字学習と関 連付けてタブ レットを用 いた調べ学 習を行い、情 報を集め、 タイピング の練習も積 み重ねてい く。	
		活動計画 ① 学びあいのスキル(南井上小版)を活用する とともに、課題解決のためのワークシートや ノートを工夫し、指導を充実させる。 ② 自力解決時の考え方をわかりやすく伝え合 うために、ホワイトボードやタブレットなどの 活用を図る。 ③ 各教科の授業のねらい達成に、ICT機器の積 極的な活用を図る。ICT支援員を活用する。	活動計画の実施状況 ① スモールステップや個別学習による「わか る・できる」実感から、意欲を高めた。 ② 各学年で教材研究及び指導方法の研究に取 組んだことで、グループやペアでの学習が充 実した。 ③ 各教科で、タブレット、書画カメラ、プロ ジェクター等、ICT機器を効果的に活用でき た。ICT支援員と共にスキル習得Planを作成した。	(評定) B	・電話対応など、小さなこ とでも丁寧に対応している小 学校の様子がよくわかった。	

重点課題	重点目標	自己評価 評価指数と活動計画	自己評価 評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
<p>めざす児童像 『素直で思いやりのある子ども』を育成する。</p> <p>○ 人権教育の徹底</p> <p>○ 生徒指導の徹底</p> <p>○ 道徳教育の充実</p> <p>○ 環境教育・ボランティア教育の推進</p> <p>○ 特別支援教育の充実</p>	<p>① 豊かな人間性をはぐくむ教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 感性を育む行事 いじめや差別を許さない人権教育 生活の基本行動様式の確立 考え議論する道徳の推進 	<p>評価指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 感性を磨くために読書活動、音楽活動、伝統文化にふれる活動を推進する。「一日10分以上読書をする」 人権を尊重する教育を充実し、差別を見抜き、差別を許さない児童を育てる。「よさを認め合う仲間づくり、差別やいじめのない学校づくりに取り組んでいる」 いじめや不登校の早期発見・早期解決に努める指導体制の充実を図る。「学校は、児童一人ひとりを大切にし、互いに認め合う学級、学校づくりに取り組んでいる(保護者)」昨年度の85%を超えたい。 学校の一員としての自覚を促し、規範意識を高める(挨拶、整理整頓、ろう下の歩行)。「自分から挨拶をする(児童)」 南井上地区の教育資源を生かし、自然体験活動、社会体験活動、ボランティア活動等の充実を図る。 <p>活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 読書活動、音楽活動、伝統文化にふれる活動をポストコロナの新しい行事として推進する。 人権教育年間計画に従って、重点課題(自尊感情を高める自分づくり、支え合う仲間づくり)に取り組み、人権教育の充実を図る 必要に応じ生徒指導委員会をもち、生徒指導上の問題に対処し校内の指導体制を確立する。 あいさつ運動を展開し、気持ちのよいあいさつができる児童を育成する。 南井上地区の教育資源を教材化して教育課程に位置づけ、各学年で地域学習に取り組む。 	<p>評価指標の達成度</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域ボランティアによる読み聞かせを朝活動時間に実施(月1回)し、人権コンサートや阿波人形浄瑠璃など文化的な行事を実施した。「一日10分以上読書をする」児童58.5% 「学校は、児童一人ひとりを大切に、互いに認め合う学級、学校づくりに取り組んでいる」保護者92.9%(昨年度より+7.9%) 早期発見、「報告・連絡・相談」を心がけ、生徒指導主任、学年主任を中心とする生徒指導体制で指導にあたった。 ポジティブな行動支援を中心に自己肯定感に育成に取り組んだ。「自分から挨拶している」児童80.4%(−3.6%)「家族に挨拶をしている」保護者87.7%「学校へ行くのが楽しい」は児童83.3%、保護者93.4%。 生活や総合の授業において、町探検や農業見学など社会体験活動を小中学生で数回行った。 <p>活動計画の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 人権コンサートや阿波人形浄瑠璃など文化的な行事を朝活動時間に実施(月1回)。随時、学級の読書タイムや「くすくす読書デー」を実施。図書委員会による「図書館まつり」で読書を啓発した。 生活委員会を中心にあいさつ運動を継続的に指導した。校外での挨拶が課題である。 「地域とともに学、地域から学ぶ」学習は、生活科・総合的な学習の時間を中心に、実施した。 	<p>(評定) B</p> <p>様々な活動の折に、学年・学級や異学年の友達と気づいたよさを伝え合うことで、相互理解が進み、関わりを深めた。それが、自己肯定感の高まりにつながった。</p> <p>明確な目標を語りかけ続け、児童と教師が一体となって取り組むことができ、成果を上げた。</p> <p>「地域から学ぶ」学習を進めることで、人と人のつながりを守っていききたい。</p>	<p>・読書の時間が少ないことはゲームの時間にとられているのではないだろうか。</p> <p>・読書デーをつくって推進することはとても意義のあることだと思う。</p> <p>・ゲームについては、保健だより等でも健康面との関係があるので啓発しているが、なかなか難しい。</p> <p>・小学校の6年間の学びは本人の根っことなると思う。</p> <p>・音楽教師が不足しているのではないと思う。</p> <p>・参観日や運動会は子どもたちの楽しそうな様子が素晴らしかった。</p>	<p>○心を豊かに育てるために人権コンサートなど、子ども心に響く行事を引き続き実施する。</p> <p>○朝の活動時、読書する時間を設定する。(毎週火曜日を読書デーとする。)</p> <p>○生徒指導については、過去の事例(自他校間わず)を参考に、初期対応や事後指導し、未然防止に向けた取組を行ったりする。</p> <p>○各委員会で、しっかり取り組む。あいさつ(ボランティア)、トイレスリッパ・廊下の通り方(保健・体育)、清掃(環境)、読書(図書)</p> <p>○スリッパの整頓はカラーリボンで可視化する。</p> <p>○異学年交流の「○○教室」(例 鉄棒教室、なわとび教室)を実施し、苦手な運動でもできたことを多くの人が認められ、次のステップへ意欲を持たせられる活動を取り入れる。</p>
<p>○ 家庭・地域・関係機関との連携</p>	<p>① 学校のユニバーサルデザイン化を推進する。</p> <p>② 校内支援体制の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の指導計画を作成し、一人ひとりに応じた指導を行う。 専門の相談員を招いた定期的な相談活動や子ども女性相談センター・補導センターへの相談を行うとともに、保護者との連携を強くする。 交流学習の時間を教育課程に位置づけるとともに、給食その他の時間でも交流を推進する。 <p>活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーター、生徒指導主任を核とし、児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた校内の支援体制、教育相談体制の充実を図る。 特別支援学級と通常学級の交流学習の推進を図る。 必要に応じて、校内支援委員会をもつ。 	<p>評価指標の達成度</p> <ol style="list-style-type: none"> 個別の指導計画を作成し、新旧担任間やチームで引き継ぎ、指導の一貫性を図った。 スクールカウンセラーや巡回相談員など、専門の相談員を適宜招聘し、継続した相談活動が実施できた。また、関係機関とも積極的に連絡を取り、相談・連携を行った。 交流計画に基づき、児童の状況に応じて通常の学級との交流を円滑に実施した。 <p>活動計画の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 支援が必要な児童、校内の支援体制で対応しているが決して十分ではない。特別支援コーディネーターを中心に、多様な相談に対応した。 年度当初に交流計画書を作成し、児童の実態に応じた教科等の交流を進めることができた。 入級、退級の児童について、細やかな校内支援委員会が数回開催できた。 	<p>(評定) B</p> <p>一人一人の課題解決へ積極的に取り組めた。通常の学級に在籍する児童を必要とする多くの児童への支援については、記録をとり、それを活用し、見通しの下での対応が課題である。</p>	<p>・カウンセラーが足りないのではないと思う。</p> <p>・次年度への課題と対策は、どれもよく考えられているのですべては難しくても、南井上ならではのものを一つ、二つ作ってやり抜いていただけるとありがたいと思う。</p>	<p>○特別支援教育に関する研修を実施し困り感をもつ児童への理解を深める。</p> <p>○交流を始める前に支援学級と通常学級の担任とで児童の情報交換をする。学習の目的や、個に応じた目標を共通理解しておくとしてよい交流になると考えられる。</p> <p>○次年度の交流のあり方について話し合う時間を設定し、子どもに応じた交流、支援ができるようになる。</p>
<p>○ 家庭・地域・関係機関との連携</p>	<p>① 家庭や地域と協力し、コミュニティスクールとして学校づくりを推進する</p> <p>② 関係諸機関から外部講師を招聘し、深い学びを展開する。</p> <p>③ 地域とともにある学校として、地域の子どもたちにとって何が大切か考え、関係機関と協力していく。</p> <p>④ 児童・保護者・地域・教職員のwellbeingを実現できるように学校経営を行う。</p>	<p>評価指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学校は様々な行事や取組において家庭や地域と連携して児童の教育にあっている」「保護者に出す文書、HP、メールはよくわかり適切である」 外部講師を積極的に招聘する。社会科や生活科、総合的な学習の時間(キャリア教育・金銭教育等)に位置づける。 地域諸団体の会合に積極的に参加する。 <p>活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> よりよい教育活動づくりに向け、保護者・学校関係者による学校評価結果や意見を参考に、学校運営を見直す。 教育活動の公開や情報提供を多様に行う。 保護者・地域の方を外部講師やボランティアとして招き、専門的な知識・技能を学校教育活動に積極的に導入する。 地域諸団体・関係機関と連携し、児童の安全確保の体制を整備する。 働き方改革を推進し、教職員の資質・能力の向上に努める。 	<p>評価指標の達成度</p> <ol style="list-style-type: none"> 「学校は様々な行事や取組において家庭や地域と連携して児童の教育にあっている」保護者は91.9%肯定的回答。「保護者に出す文書、HP、メールは適切」保護者92.6%肯定的回答。 人権コンサートや人権講演会等に外部講師の適切な招聘し、関係機関と連携して学校運営を行うことができた。 地域の行事に管理職はできる限り参加した。 <p>活動計画の実施状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 前年度の学校評価を生かし、挨拶・整頓の励行、自己解決力の育成、特別支援教育の充実を重点目標として教育活動を進めた。 HP更新、学校だより、学年通信の発行、関係文書等を通じて情報提供を行った。 「総合的な学習の時間」や生活科の時間を中心に、感染防止から可能な限り、地域の教育資源(人材)を生かした交流を実施した。察(名古屋)等と連携し、児童の安全確保について相談・協議できた。 メンター制が充実し学びは多かったが、超過勤務時間は、39.5時間と昨年より増え、働き方改革は進まなかった。 	<p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>地域との交流、学校の教育実践の公開は、ポストコロナとして積極的に取り組むことができた。</p> <p>新しい時代にふさわしい学習活動や行事などを通信やホームページで紹介する等、多様な方法で発信した。地域とともにウェルビーイングをめざしたい。</p>	<p>・挨拶については年々していないように思う。「恥ずかしい」と思うことがあるかもしれない。</p> <p>・不審者対応で「知らない人に声をかけられても、対応しない」といった風潮があるのではと思う。</p> <p>・挨拶は今はいなくても高校生ぐらいになったらできる子どもも多い。あきらめることなく、ねばり強くゴールを目指して声かけをしていくことが大切なのではないだろうか。</p> <p>・地区懇談会などを以前と形を変えてもよいのでしていた</p>	<p>○すすんで自分から挨拶するための啓発として、児童だけでなく家庭への呼びかけ(HP、学校、学年だよりなど定期的に行う)も定期的に行う。そのためにも学校と家庭との信頼関係を築いていく必要がある。</p> <p>○生徒指導、教育相談等についても関係機関との連携や相談協力体制を整える際には、それぞれのステージに応じた働きかけをし、教職員のwellbeingにも配慮する。</p> <p>○地域の人材を発掘し、ゲストティーチャーとして、招聘する。</p>